

**木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会**  
**第19回資料**  
**（代替案立案等の可能性の検討）**

**平成29年11月13日**  
**京都府**

# 目 次

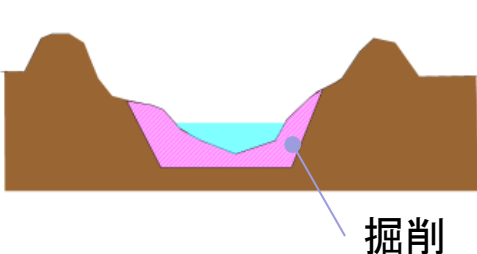
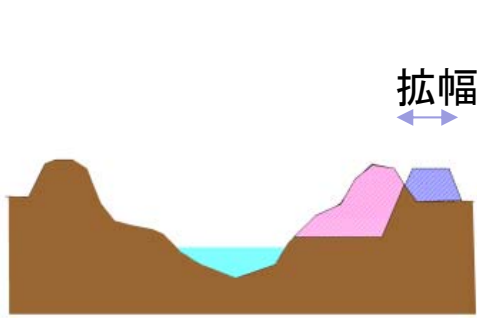
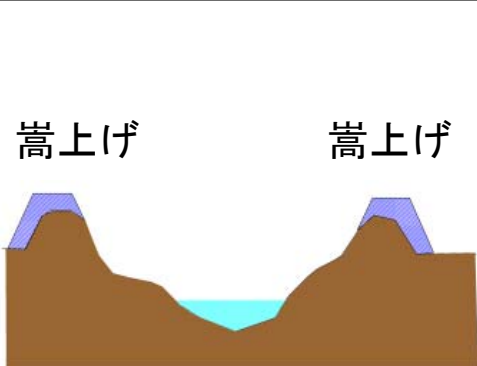
---

桂川本川	2
桂川(上)	3
雑水川	4
七谷川	5
犬飼川	6
法貴谷川	7
千々川	8
東所川	9
園部川	10
天神川	11
陣田川	12

# 代替案立案等の可能性（桂川本川）

治水対策の概要		利点	問題点	経済性	
河道改修案 (現計画)		流出量すべてを河道で流下させる	他の案より安価であり現実性が高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況より河床を大きく掘り下げるため、河床高の変化が大きく、河川生態系への影響が懸念される</li> </ul>	約182億円 (残事業費)
遊水地案		流下能力不足箇所上流に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	遊水地下流の河道改修費を幾分少なくできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な用地面積が必要となる。また、大規模な人工施設を建設するため、周辺環境への配慮が必要となる</li> <li>・遊水地設置の用地が限られ、遊水地単独では治水効果が発揮できないため河道改修が必要</li> </ul>	約948億円 (残事業費)
放水路案		流下能力不足箇所上流に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	河道改修が不要となる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な放水路が必要となり、工事費が莫大となる</li> </ul>	約4,462億円 (残事業費)

# 代替案立案等の可能性（桂川（上））

治水対策の概要		利点	問題点	経済性	
河床掘削 (現計画)		河床の掘削により洪水を流下させる	下流の改修済み区間との連続性を確保できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床が岩盤であり、掘削方法について検討が必要</li> </ul>	約8.5億円 (残事業費)
河道拡幅		河道の拡幅により洪水を流下させる	流水部の施工範囲が小さくなり、工事に伴う濁水の発生が抑えられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流の改修済み区間との連続性が保てない</li> <li>拡幅に伴い、橋梁等構造物の改築が必要となる</li> <li>改修済み区間の護岸・堤防の一部取壊し等が生じる</li> <li>再度用地買収が必要となり、地域の合意が得られにくい</li> </ul>	約18億円 (残事業費)
堤防嵩上げ		堤防嵩上げにより洪水を流下させる	流水部の施工範囲が小さくなり、工事に伴う濁水の発生が抑えられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流の改修済み区間との連続性が保てない</li> <li>嵩上げに伴い、橋梁等構造物の改築が必要となる</li> <li>再度用地買収が必要となり、地域の合意が得られにくい</li> <li>洪水位が高くなり、万一氾濫した場合の被害の程度が大きくなる</li> </ul>	約9.0億円 (残事業費)

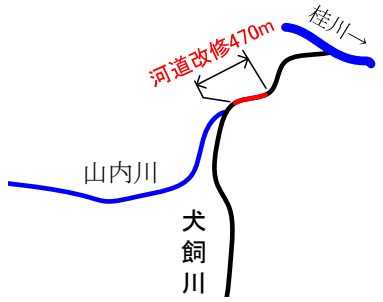
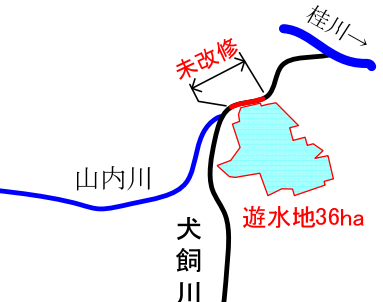
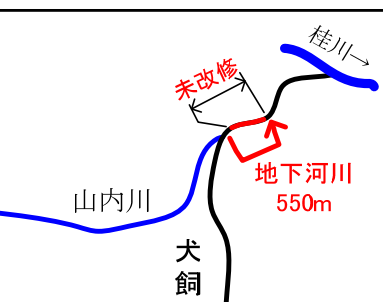
# 代替案立案等の可能性（雑水川）

治水対策の概要		利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		<p>河道改修により洪水を流下させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の案より安価であり現実性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況より河床を深く掘り下げるため、河床高の変化量が大きくなることから、河川環境等への配慮が必要</li> </ul>	<p>約20億円 (残事業費)</p>
放水路案		<p>計画区間最上流から放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画に比べて、河道改修に要する用地買収が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況河川の流下能力が低いため、放水路取水口より下流の流域での降雨に対して、河道改修も必要</li> </ul>	<p>約85億円 (残事業費)</p>
ため池改良案		<p>既存のため池を拡大し、洪水調節することで、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画に比べて、河道改修に要する用地買収が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池の拡大に伴う用地買収と物件補償費が増大</li> <li>・ため池周辺は国道9号が隣接し、市街化しているため用地買収が困難</li> </ul>	<p>約40億円 (残事業費)</p>

# 代替案立案等の可能性（七谷川）

治水対策の概要		利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況より河床を深く掘り下げるため、河床高の変化量が大きくなることから、河川環境等への配慮が必要</li> </ul>	約23億円 (残事業費)
遊水地案		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な用地面積が必要で、遊水地設置に伴う用地買収費が高額となる</li> <li>・大規模な施設を建設するため、周辺環境への配慮が必要となる</li> </ul>	約360億円 (残事業費)
放水路		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下流区間の河道改修が不要になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桂川の堤防を開削し、放流管を設置する必要がある</li> <li>・放水路設置に伴う用地を新たに取得する必要がある</li> </ul>	約33億円 (残事業費)

# 代替案立案等の可能性（犬飼川）

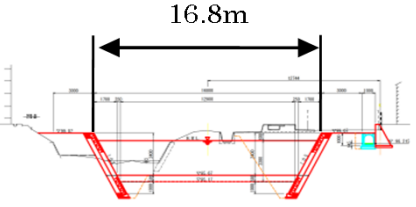
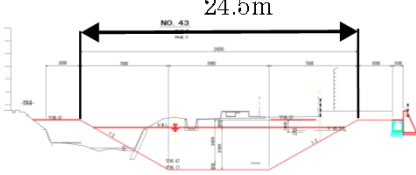
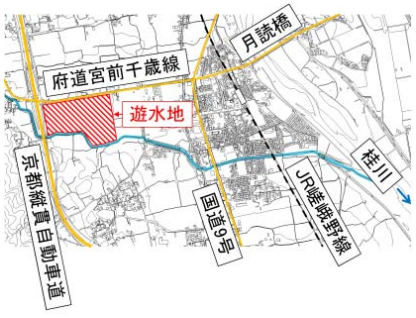
治水対策の概要		利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		<p>河道改修により洪水を流下させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流改修済み区間との連続性が確保される</li> <li>・他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁(国道9号)を架け替える必要があり、工事中の社会的影響を考慮する必要がある。</li> </ul>	<p>約6億円 (残事業費)</p>
遊水地案		<p>未改修区間の上流に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な遊水地が必要となり、用地買収費が高額となる。</li> </ul>	<p>約100億円 (残事業費)</p>
放水路案		<p>未改修区間の上流に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な放水路が必要となり、事業費が高額となる</li> </ul>	<p>約82億円 (残事業費)</p>

# 代替案立案等の可能性（法貴谷川）

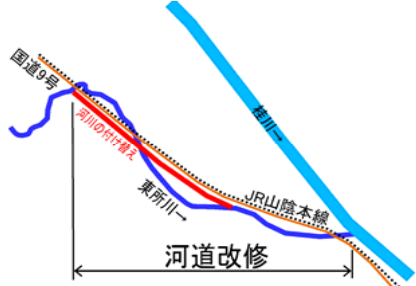
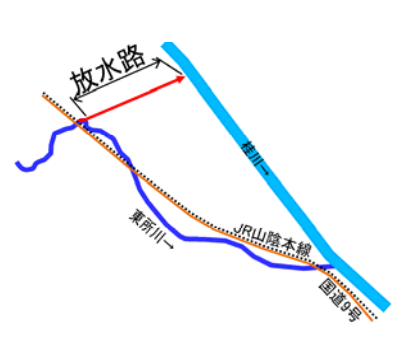
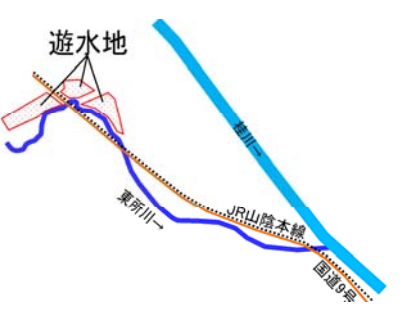
	治水対策の概要	利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		<p>河道改修により洪水を流下させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流改修済み区間との連続性が確保される</li> <li>・圃場整備事業との整合が図れる</li> <li>・他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川を付替えることから、周辺の景観及び環境等への配慮が必要である</li> </ul>	<p>約6億円 (残事業費)</p>
放水路案		<p>計画区間最上流に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画流量に対して、現河道の流下能力が大きく不足しており、大規模な放水路が必要となる</li> <li>・放水先の犬飼川の河道改修が必要となる</li> </ul>	<p>約10億円 (残事業費)</p>
遊水地案		<p>計画区間最上流に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な用地面積が必要で、遊水地設置に伴う用地買収費が高額となる</li> <li>・大規模な施設を建設するため、周辺環境への配慮が必要となる</li> </ul>	<p>約47億円 (残事業費)</p>



# 代替案立案等の可能性（千々川）

	治水対策の概要		利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		河道改修により洪水を流下させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下流改修済み区間との連続性が確保される</li> <li>・地元合意が得られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況より河床を深く掘り下げるため、河川環境等への配慮が必要となる</li> </ul>	約7億円 (残事業費)
河道改修案 (土羽護岸)		河道改修により洪水を流下させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境に配慮するとともに、親水性が確保される</li> <li>・護岸工が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな用地買収が必要となる。</li> <li>・上流側の橋梁の再度改修が必要となる</li> </ul>	約10億円 (残事業費)
遊水地案		計画区間最上流に遊水地を設置し、洪水流量の軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道9号から上流区間において、河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況河川の流下能力が低いため、遊水地より下流の流域での降雨に対して、河道改修も必要となる</li> <li>・広大な用地面積が必要で、遊水地設置に伴う用地買収費が高額になる</li> </ul>	約38億円 (残事業費)

# 代替案立案等の可能性（東所川）

	治水対策の概要		利点	問題点	経済性
河道改修案 (現計画)		河道改修により洪水を流下させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下流改修済み区間との連続性が確保される</li> <li>・土地区画整理事業との整合が図れる</li> <li>・他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川を付け替えることから、周辺の景観及び環境等への配慮が必要である</li> </ul>	約13億円 (残事業費)
放水路案		計画区間最上流に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道9号より下流の河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR山陰本線を横断するため鉄道への影響が懸念される</li> <li>・計画流量に対して、現河道の流下能力が大きく不足しており、大規模な放水路が必要となる</li> </ul>	約15億円 (残事業費)
遊水地案		計画区間最上流に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道9号より下流の河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な用地面積が必要で、遊水地設置に伴う用地買収費が高額となる</li> <li>・大規模な施設を建設するため、周辺環境への配慮が必要となる</li> </ul>	約36億円 (残事業費)


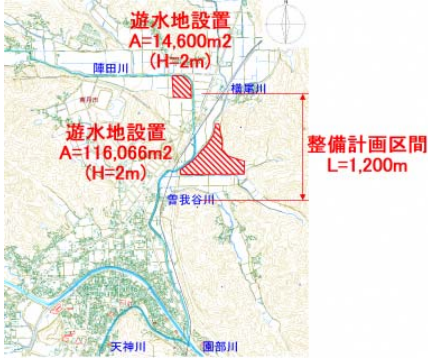
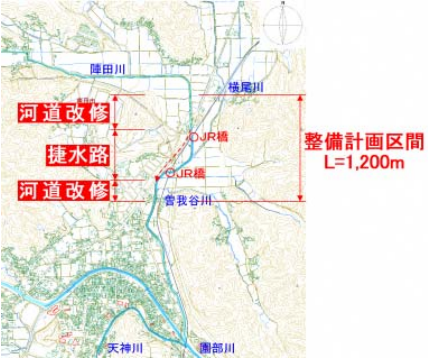
# 代替案立案等の可能性（園部川）

	治水対策の概要		利点	問題点	経済性
<p>河道改修案 (現計画)</p>		<p>河道改修により洪水を流下させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流改修済み区間との連続性が確保される</li> <li>他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁及び井堰の改修に費用がかかる</li> </ul>	<p>約69億円 (残事業費)</p>
<p>遊水地案</p>		<p>流下能力が不足する区間の上流側に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁及び井堰を含む河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な遊水地設置が必要になり、用地買収費が高額になる</li> </ul>	<p>約290億円 (残事業費)</p>
<p>放水路案</p>		<p>流下能力が不足する区間の上流側に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁及び井堰を含む河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な放水路が必要になり、費用が高額になる</li> </ul>	<p>約782億円 (残事業費)</p>

# 代替案立案等の可能性（天神川）

治水対策の概要		利点	問題点	経済性	
河道改修案 (現計画)		河道改修により洪水を流下させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流整備済み区間との連続性が確保される。</li> <li>他の案より安価であり実現性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁を改修する必要があり、工事中の社会的影響度を考慮する必要がある。</li> </ul>	約29億円 (残事業費)
遊水地案		流下能力が不足する区間の上流側に遊水地を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>家屋が隣接する区間を含む河道改修が不要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに遊水地設置に伴う用地買収費及び家屋補償が必要となる。</li> </ul>	約32億円 (残事業費)
放水路案		流下能力が不足する区間の上流側に放水路を設置し、当該区間の洪水流量の軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>家屋が隣接する区間を含む河道改修が不要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河道改修案の延長より長い放水路となり、経済性が劣る。</li> </ul>	約85億円 (残事業費)

# 代替案立案等の可能性（陣田川）

	治水対策の概要	利点	問題点	経済性
<p>河道改修案 (現計画)</p>	 <p>河道改修 L=1,200m</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下流整備済み区間との連続性が確保される</li> <li>・他の案より安価であり実現性が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁を改修する必要がある、工事中の社会的影響を考慮する必要がある</li> </ul>	<p>約17 億円 (残事業費)</p>
<p>遊水地案</p>	 <p>遊水地設置 A=14,600m<sup>2</sup> (H=2m)</p> <p>遊水地設置 A=116,066m<sup>2</sup> (H=2m)</p> <p>整備計画区間 L=1,200m</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁を含む河道改修が不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに遊水地設置に伴う用地買収が必要となる</li> </ul>	<p>約44 億円 (残事業費)</p>
<p>放水路案</p>	 <p>河道改修</p> <p>放水路</p> <p>河道改修</p> <p>整備計画区間 L=1,200m</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁の架け替えが不要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況河道の流下能力が低いいため、放水路取水口より下流の流域での降雨に対して、河道改修も必要となる</li> </ul>	<p>約35 億円 (残事業費)</p>